

インクルーシブなSociety 5.0を創る文理横断型「情報学部」



現状と課題

【現状】情報学系の教育組織 = 社会情報学部と理工学部に分散
 【課題】 Society5.0の実現に必要な人材の資質・能力の育成が困難

人工知能やIoTなどの先端情報技術によって可能とする成果を人間中心の社会の要素として実社会で実現していくため専門を活かし協業できる多様な人材

旧学部では修得不可能
境界領域の教育に対応できていない

情報学部の設置 [2021年4月]

情報やデータサイエンスを基軸とし、人文社会科学の知見から実社会の課題発見を行い、解決のための社会システムを設計し実装できる人材の育成

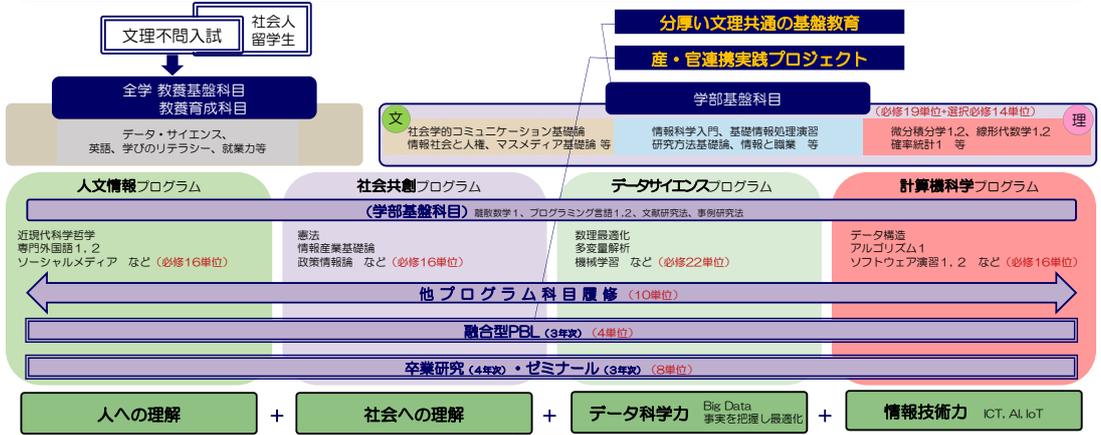
- ✓ 4つのディシプリン（人文科学、社会科学、データ科学、計算機科学）を融合
- ✓ 分厚い基盤教育課程と問題解決力の養成

分厚い融合の学位プログラム
「情報学」

概要

学部の特色

- ✓ 文理融合の体系的な教育課程と情報を軸とした4分野の専門ディシプリンの融合的学修
- ✓ 入試の大括り化（文系・理系を問わない入試）
- ✓ 全学教学マネジメント体制下での全学生に対する共通の基盤科目（数理・データサイエンスなど）の提供
- ✓ 地域・社会の要請に応答する分野融合の実践型PBL



アウトカム

- ✓ 文理融合を通じた総合的情報学の基盤を共有した人材
- ✓ 社会課題を共有し、各自の専門能力を発揮して協働する人材（社会ニーズからバックキャストに考え社会システムを設計実装できる人材群）
- ✓ インクルーシブな社会（SDGs・Society5.0）を実現するため、地域や社会のニーズに応える地域における知識集約の中核を担う学部

プログラム概念図



融合型PBL・ゼミ（演習）・卒業研究により
実践的に活躍できる能力を涵養



選択したプログラムにおいて基軸となる専門能力を養い、他プログラム科目の履修を通じて文理融合による俯瞰力を育成

2年次に希望するプログラムを選択

学部基盤教育

情報学部の教育理念



<求められるスキル>

- 数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能
- 人文社会芸術の教養・知見
- 社会課題を情報学で解決する思考力
- データの処理・解析のための、情報と統計に関する知識

<社会的背景>

- 新たな価値を生み出すためにはAI・IoTを活用できる人材が必要
- イノベーション戦略の立案には人文・社会科学の視野をもった人材が必要
- 持続可能な社会の創出には倫理価値観の形成や経済活動、生活様式など文理融合の素養をもった人材が必要

<教育体系>



<養成人材像>

- 社会組織や制度をグローバルに実現し得る人材
- 情報科学に関連した幅広い基礎知識を持った人材

<活躍の場>

- 行政機関
- 金融機関
- 起業家
- コンサルタント
- 企業（情報、電機、通信、自動車、広告等）

<社会への影響>

- 地方創生への貢献や持続可能でインクルーシブな社会の実現へ

履修概念図

情報を基軸として、あらゆる分野においてSociety5.0の展開を支えながら、主体的に行動できる人材として社会で活躍

